2024年度町田市教育委員会

第１回臨時会会議録

１、開催日　　2024年８月21日

２、開催場所　　町田市庁舎三階　第一、二、三会議室

３、出席者

教育長	小池　愼一郎	
委員	後藤　良秀	
委員	森山　賢一	
委員	井上　由奈	
委員	関根　美咲	

４、署名者　　教育長

委　員

５、出席事務局職員

学校教育部長	石坂　泰弘
生涯学習部長	白川　直美
教育総務課長	高田　正人
指導室長	大山　聡
（兼）指導課長	
指導課統括指導主事	末原　久志
教育センター所長	横山　隆章
中学校教科用図書調査協議会会長	髙橋　博幸
中学校教科用図書調査協議会副会長	風間　茂
中学校教科用図書調査協議会副会長	高橋　健志
書記	中里　典子
書記	馬目　拓実
書記	齊藤　華子
書記	板垣　有美子
書記	太田　優人
書記	山田　直輝
速記士	帯刀　道代

（株式会社ゲンブリッジオフィス）

６、提出議案及び結果

議案第16号　2025年度使用教科用図書（中学校）の採択について　　原　案　可　決

議案第17号　2025年度使用教科用図書（小学校）の採択について　　原　案　可　決

議案第18号　2025年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について

原　案　可　決

７、傍聴者数　　44　名

８、議事の大要

午前９時56分

〇教育総務課長　会議が始まる前に、傍聴人の皆様にご案内と、幾つかお願いがございます。

円滑な会議運営のために、傍聴者の皆様は、教育長、係員の指示に従っていただきますようご協力をお願いいたします。また、町田市教育委員会傍聴人規則第５条に基づき、会議中の撮影・録音は禁止といたします。

まず、本日の会議の進行ですが、議案第16号「2025年度使用教科用図書（中学校）の採択について」が終わりましたら、会議は一時休憩をいたしますので、ここでお帰りになることも可能でございます。

なお、傍聴の際の参考として、本日お渡しいたしました「教育委員会会議を傍聴される方へ」の裏面に「2025年度町田市立中学校使用教科用図書採択候補一覧」を記載しておりますので、ご活用ください。こちらはお持ち帰りいただいて結構でございます。

休憩後も会議を傍聴される方には、休憩の際に後半の閲覧用資料を配布いたします。後半の閲覧用の資料をお持ち帰りいただく場合は、資料の片面１枚につき10円の実費をご負担いただくことになります。

会議中は、携帯端末機の電源を切るか、マナーモードに切りかえてください。

また、ペットボトルをお持ちの方は、適宜水分をお取りいただいて構いません。

会議の円滑な運営にご協力くださいますようお願いいたします。

それでは、開会までもうしばらくお待ちください。

午前10時00分開会

○教育長　開会に先立ちまして、事務局より案内がありましたように、傍聴者の皆様には、円滑な会議ができますように、ぜひともご協力をお願いいたします。また、町田市教育委員会傍聴人規則第５条に基づき、会議中の撮影・録音は禁止となっておりますので、これにつきましてもご理解いただきたいと思います。

それでは、ただいまから町田市教育委員会第１回臨時会を開会いたします。

本日の署名委員は井上委員です。

日程第１、議案審議事項に入ります。

議案第16号「2025年度使用教科用図書（中学校）の採択について」を審議いたします。本件については、学校教育部長からご説明申し上げます。

○学校教育部長　議案第16号「2025年度使用教科用図書（中学校）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同法施行令第14条及び第15条、町田市立小・中学校教科用図書採択要綱の規定により、2025年度使用の中学校の教科用図書を採択するものでございます。

町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、教科用図書調査協議会を設置し、採択に必要な事項を調査・協議いたしました。2024年度町田市教育委員会第５回定例会における本協議会からの報告を踏まえ、教科用図書について採択するものでございます。

１枚おめくりください。

2025年度町田市立中学校使用教科用図書採択候補一覧でございます。国語は４社、書写は４社、社会（地理的分野）は４社、社会（歴史的分野）は９社、社会（公民的分野）は６社、地図は２社、数学は７社、おめくりいただきまして、理科は５社、音楽（一般）は２社、音楽（器楽合奏）は２社、美術は３社、保健体育は４社、技術・家庭（技術分野）は３社、技術・家庭（家庭分野）は３社、英語は６社、道徳は７社候補がありますので、それぞれ採択していただきます。

説明は以上となります。

○教育長　以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了します。

それでは、採択に入ります。

まず、採択本の決定方法については、いかがいたしましょうか。

特になければ、私からご提案したいと思います。

基本的に2023年度の小学校の教科書採択、2020年度の中学校の教科書採択の際にとった方法と同様、無記名投票による方法がよいと思います。既に８月２日の教育委員会第５回定例会の際、教科用図書調査協議会からの報告は受けておりますので、その報告内容も踏まえて、各委員が意見を述べて、投票するという形にしたいと思います。

なお、これも前回と同様ですが、教育長と教育委員は合わせて５名ですので、投票の結果、過半数、つまり、３票以上を獲得すれば採択されることになります。投票数が過半数に至らなかった場合ですが、例えば２対２対１のような場合は、２票を獲得した教科書会社２社で決選投票を行うことになります。また、２票を獲得した教科書会社が１社だけで、あとは１票ずつの獲得が３社のような場合は、２票を獲得した１社を第１候補としておいて、残りの１票獲得の３社で再投票して第２候補を決め、その後に第１候補と第２候補で決選投票をするというように、過半数を占めるまで投票を繰り返すことになります。

私からの提案は以上です。

この提案につきまして、ご質問、その他何かございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

提案いたしました採択方法について、ご異議はございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長　ご異議なしと認め、無記名による投票方式に決定したいと思います。

それでは、リストに記載のあります教科ごとの採択に入りたいと思います。

リストの順番に従いまして、教科「国語」から審議いたします。

投票に先立ちまして、まず、教育長の私から意見を述べさせていただきます。

私は、これから目指すべき学びの方向や町田市で取り組んでいる事業デザインの「８つの取組」を主たる観点として各教科書を拝見いたしました。これからの町田の学びの方向性としては、もちろん知識や理解も大切ですが、みずから考え、課題を解決していく力を身につけさせることが重要です。また、一人ひとりの子どもたちの個性、考え方をできる

だけ大切にして学習を展開するための工夫も必要になります。そのためにも、個別最適な学びが実現しやすい、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい、そのような授業設計がしやすいかどうかが教科書にも求められます。

また、町田市で取り組んでいる事業デザインは、「見通しをもたせる導入」、「発問の工夫」、「価値ある対話の共有」、「振り返りの設定」、「構造的な板書とノート指導」、「ＩＣＴ機器の活用」、「思考ツールの活用」、「認め合う・学び合う集団の形成」の８つを上げています。

まず、国語の教科書ですが、どの教科書も見やすさや教材配置などに工夫が見られました。その中で、主体的な学び、深い学びに迫りやすく、コンテンツ内容が併記された二次元コードから個別学習が可能になっている三省堂の教科書が、指導する際には使いやすいのではないかと考えました。

次に、各委員からご意見をお願いいたします。

○後藤委員　まず初めに、私は、このたび中学校教科用図書の採択審査を行うに当たっての考えを述べます。

今回は現行学習指導要領で２度目の採択に当たり、大半の出版社が教科書内容を十分に精査して、紙面構成、使用文字、写真、二次元コードによるデジタルコンテンツ、人権や安全の配慮、教育課題の扱い方など、前回以上に質の高い教科書が編纂されていました。その上で、町田市の子どもたちの学力を確実に向上させていくためにはどのような教科書が適しているのかを審査いたしました。

中でも、町田らしい学びの視点として、学び方や資質・能力の育成を考えた教科書であるかどうかを重視するとともに、現行教科書の活用状況や課題について、教科用図書調査協議会の報告書、学校の教員の意見、保護者・市民の皆様の意見も参考にして、継続したほうがよいのか、新たな出版社のものがよいのかという点も加味して判断することにしました。

では、国語科ですが、目的意識を持った学び方をしっかり身につけて、資質・能力が育成できること、国語への興味・関心を導く教材がバランスよく配置され、見やすく、活用しやすい教科書が必要だと考えます。

この点で見ると、現在使用している光村図書出版か教育出版がよりよいと判断いたしました。両者ともに、教材の違いはあるものの、伝統的なもの、現代的なもの、ＳＤＧｓや情報メディア教材など、生徒の興味・関心を考え、バランスよく配置している点、学び方

として、見通し、ノートなどへの考えの表出、対話、振り返り、思考ツールなどを明示し、子どもの個別最適な学びや協働的な学びが一体的に学べるように構成してありました。

以上です。

○森山委員　では、私のほうから冒頭に、今回の2025年度使用中学校教科用図書の採択の全体の方針、並びに今回どのような形で選んだかというところについてお話をしたいと思います。

まず、協議会の報告書がございます。これについては、参考にさせていただきました。加えて、市民に対して、この教科書をご覧になっていただいた期間がございます。こういうところでの意見も酌ませていただきました。今回、採択の中では学習指導要領の中で示された内容を的確に示しているかどうか。構成や分量についても確認をいたしました。それから、表記・表現については、印刷や写真、挿絵等がわかりやすく、見やすくなっているかどうか。町田市の地域性に合っているのかどうか。加えて、全体の構成が見通せるように配慮がなされているかというところから、検討をいたしました。

先ほど教育長並びに後藤委員からもお話がありましたけれども、今回、特に大きな変化が教科書にも出てきたと思います。つまり、多様性に配慮した教科書ということが非常に重点的な要素として上げられるのではないかと思います。カラーユニバーサルデザインを初めとして、特別支援教育や人権教育に関するしっかりとした対応が見られているかどうかということです。このことにつきましては、専門家による校閲も確認をいたしました。

それから、学習内容への配慮については、関連性が必要だろうという観点から、今回採択の条件を検討いたしました。他教科との関連はどうか。あるいは公私とのつながりはどうか。あるいは地域と家庭との関係をどういうふうに踏まえているか、という学習内容への配慮については、今お話ししたような項目を示しました。

デジタル教科書に関しても、重視しなければいけない点もあります。積極的に活用できるように、例えば音声とか映像に簡単にアクセスができるような、二次元コードなどもそうですけれども、学習のねらいに応じてコンテンツが多数収録されているかどうかというのも、今回の教科書の採択の重要な観点だと思います。

私は特に全体にわたって１点だけ申し述べたいところがあります。ＱＲコード等、今回ほとんど全ての教科書の中身がそういう形で展開されているのですが、それによって、紙の教科書にはない、例えば英語の音声とか、実験とか、動画とか、視覚的あるいは聴覚的に確認ができるという非常にいい形がこの教科書の中に盛り込まれています。子どもたち、

今回は中学生ですが、中学生が興味・関心に応じて調べるということで、情報活用能力が高まるということは十分期待できると思います。そういう意味では、ＱＲコード等の活用が円滑に進むような教科書の条件というのが、重要な点としてあるのではないかと思います。その中で、今回は採択をするに当たって、私なりに今のようなことを中心に検討させていただきました。

それでは、国語の教科書についてですけれども、私は東京書籍と光村図書出版の２つの教科書を選定するのが望ましいのではないかと思います。

特に東京書籍で言いますと、「『言葉の力』で未来をひらく」をコンセプトに、自分や社会の未来についてさまざまな観点から考える、その工夫が教科書の中で非常に見られます。具体的には、「多様性」とか、「地球環境」とか、９つのテーマが設定されて、それぞれの領域の学習を通して課題認識を持つということが深められる、教科書の展開が今のような形になっています。そういう意味で、光村図書出版と東京書籍の教科書が採択として望ましいのではないかと思いました。

以上です。

○井上委員　今回の中学校教科用図書採択に当たり、町田市教育プラン2024－2028の基本方針と、町田の子どもたちの実態に沿って採択をしてまいりたいと考えております。また、不登校児童・生徒がふえ続けているというニュースもよく聞かれますが、「学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ」を掲げておりますので、自宅など、学校以外の場でも、教科書やデジタルコンテンツを見て、１人で学習をある程度進められるかどうかという点も、１つのポイントとして選びたいと考えております。

国語についてですが、私は東京書籍か光村図書出版がいいのではないかと考えています。

東京書籍は、色味など全体的なバランスがよく、「読書案内」のコーナーがとても見やすかったです。また、デジタルコンテンツが非常に充実しており、作者の紹介動画は作品を身近なものにしてくれます。うまく興味・関心を引き出すことができるきっかけがたくさん詰まっていると思いました。

光村図書出版は、まず、滑りにくい材質の表紙が手になじみます。また、「情報処理のレッスン」では、「思考のレッスン」がとても使いやすいと感じました。書き方や考え方のヒントが満載で、意欲をかき立てられますし、教科横断的な学びもできるところがいいなと感じました。

私からは以上です。

○関根委員　私は、今回の中学校教科書の採択審査におきまして、次のような観点を重要視したいと考えております。

まずは、学習指導要領の趣旨に即して、各教科の目標の達成に適したものであること。そのポイントである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、町田市学力向上推進プランの授業デザインにおける「８つの取組」が効果的に反映されるような内容であるのか。一人ひとりの子どもたちの学力向上に向け、基礎的・基本的な知識や技能の習得とその活用を目指した学習活動ができるのか。基本的人権の尊重や道徳性、他教科との関連、そして、何よりも子どもたちが学習意欲を持てるような内容なのかということを念頭に置き、教科用図書調査協議会の報告書、学校教育現場の先生方や保護者・市民の皆様のご意見なども参考にさせていただきながら、これからの時代を担う子どもたちが生きる力を育むために、町田市の子どもたちにとって最も学びやすく、先生方にとって最も使いやすいものであってほしいと思い、採択に当たりたいと思います。

それでは、国語について述べさせていただきます。

国語という教科は、全ての教科を読み解くための礎であり、新しい知識を蓄えるために不可欠なものです。そして磨かれた国語力は生活そのものを豊かにするすべにもなります。正しい言葉を使う。気持ちを伝える。わかりやすく書くといったコミュニケーション能力こそ、今の時代に求められているものだと思います。学力の基礎であり、中学生が成長するために大きく影響する言葉の力をいかに育てていくかということを踏まえ、教科書研究させていただきました。

国語に関する全ての領域をバランスよく学べ、国語力が身につくように構成されているものを考えたとき、私は三省堂と光村図書出版がよいかと思いました。

三省堂につきましては、教科ごとの目標や、「つけたい力」を認識できる一覧表や、「思考の方法」を手助けするチャート図とその使い方の例があります。また、単元ごとの「学びの道しるべ」では、見通しを持って主体的に学ぶことができます。そして、「読み方を学ぼう」での「三角ロジック」において、「主張」、「事実」、「理由づけ」の３点を分析することによって、筆者の論理の組み立てを視覚的に整理することができることもこの教科書の大きな特色です。学びをつなげることを意識して、読むことから書くことへ、効果的な学習につながる工夫も見られました。

次に、光村図書出版ですが、学年ごとに、１年間でどんな学習をし、どんな力を身につけるのかを見通せて、さらに他教科、ＳＤＧｓとの関連も意識できる一覧表があります。

「思考の地図」では、場面や目的に応じて思考を広げ、整理し、深めながら、課題を解決したり、自分の考えを深める工夫もありました。全領域で見通しを持って主体的に学習できるよう、「学びへの扉」では、単元の学習の流れとポイントを明確に示してあります。また、学習のポイントや前後の学習とのつながりを確認できる「学びのカギ」は、それを書く力につなげていけることから、子どもたちにとって深い学びが期待できると思います。教材も非常に豊富であり、長年読み継がれてきたものから、ＳＤＧｓやＩＣＴ、情報化社会など、時代を見越した作品も掲載されています。また、別冊の「語彙ブック」は、書く力や語彙力のアップにもつながる充実したものでした。

これらのことから、私は町田市の子どもたちにとって確かな国語力が身につくような教科書を選びたいと思います。

以上でございます。

○教育長　それでは、各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

事務局より投票用紙を配付しますので、投票をお願いします。これが最も適していると思われるもの１つを選び、配付された投票用紙に丸をつけて投票していただきたいと思います。記入が終わった投票用紙は、事務局が回収して集計いたします。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍２票、光村図書出版３票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、光村図書出版が過半数、３票以上を獲得しましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「国語」は、光村図書出版に決定いたします。

次に、書写の教科について審議いたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

どの教科書も二次元コードなどもよく工夫されていると感じました。現代は他者との伝達手段にパソコンやスマートフォンを活用することがふえてきましたが、実際に手紙を書くなど、アナログな伝達手段も大事にしていきたいと考えています。

そのような観点からも、はがきの裏表を実物サイズで記入できたり、楷書や行書など、さまざまな手本が示されたりしている三省堂の教科書はよく工夫されているなと思いました。

次に、各委員から意見をお願いします。初めに、後藤委員、お願いします。

○後藤委員　書写では、書字の力を高めるための技術向上のために、見本や解説の見やすさ、わかりやすさ、それらをデジタルコンテンツを活用して学ぶこと、学校生活や日常生活との関連、実用的な学びができるように編集されているかなどを中心に見ました。

その結果、現在、使っている教育出版か光村図書出版が適していると考えます。

以上です。

○森山委員　私から意見を述べたいと思います。この教科について２社上げたいと思います。

１つは、教育出版の教科書です。これは書く力が身につくというか、いわゆる支えるということを重視して教科書が編集されています。特に行書の筆遣いについては、体感することができるような工夫がなされています。加えて、学習手順がはっきりと示されていて、ある面では生徒が主体的に学習するための重要な構造になっていると思いました。また、表現力を高めることについても、活用する力というところを書写の中でどう捉えていくか、教科書の内容を非常に工夫して編集されているなと思います。

それから、東京書籍の教科書については、単元の学習でのポイントが非常に明確に示されていると思いました。加えて、行書等、生徒はなかなか難しいといいますか、結構課題を持つところでもありますが、そこも例えば４つの動きを通して行書を学んでいくとか、非常に構造化された書写の教科書だと思います。

以上、２社の教科書が非常にすぐれていると判断いたしました。

○井上委員　私は光村図書出版がいいと思いました。まず初めに、姿勢や持ち方もさることながら、用具の準備や片づけについて一番大きくわかりやすく明示してあると思います。小学校で書道は一通り習っていますが、中学校に入学して気持ちを新たに、また曖昧にしてきた部分の確認のためにも、スタートは肝心だと考えます。また、書き初めの手本が実寸サイズで複数ある点や、別冊の「書写ブック」の使い勝手も加味して、光村図書出版がいいのではないかと思います。

私からは以上です。

○関根委員　書写についてですが、子どもたちが文字や言葉を書きあらわすことについて深く考え、相手や目的に応じて書く意識を高めながら、実際の日常生活や実社会における言語活動を支えるような書写力を身につけていくことが大切だと思います。学びを支える書く力について、今のデジタル時代に手書きをする意味や、楷書だけではなく行書まで学

ぶ意味を考えながら、子どもたちが自分たちの周りにある文字文化の豊かさに気づき、教員にとっても、その文字文化を豊かに育めるような書写指導ができるような教科書を選びたいと思います。

このような観点から見ていきますと、私は教育出版と光村図書出版がよいかと思います。

教育出版は、見本や写真、イラストが大きく、子どもたちが実際に授業の中で使いやすいのではないかと思いました。学校行事での活動や他教科との関連が図られた学習活動など、子どもたちの日常生活につながりのある教材数が他社に比べてとても多いことも評価できるところだと思います。

光村図書出版は、見開きで半紙と同じ大きさのお手本があります。毛筆の練習時には大変適したサイズであり、また、全ページにポイントを配置することで、子どもたちも指導者も使いやすい工夫が見られます。デジタルコンテンツについては多数あり、内容も充実しているので、学習のサポートや自主的・自発的、そして発展的な学習への取り組みが期待できると思います。巻頭にある別冊の「書写ブック」については、硬筆練習として書き込むことで、毛筆での学習を硬筆に生かし、しっかりと定着ができるものになっています。また、取り外しができるので、とても使いやすいという先生方の声も聞けました。

各社ともそれぞれに工夫が見られる教科書ですが、私はこの２社から選択をさせていただきたいと考えます。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

三省堂１票、教育出版３票、光村図書出版１票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、３票以上を獲得した発行者が教育出版になります。ですので、教育出版を採択ということにいたします。2025年度使用教科用図書、中学校「書写」は教育出版に決定いたします。

続いて、社会（地理的分野）の教科について審議をいたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

どの教科書会社の教科書もとてもカラフルで見やすいものになっています。二次元コードを活用した個別最適な学びに活用できる工夫などもされていましたし、小学校の学習か

らの学びの系統や歴史分野や公民分野との関連にも工夫がなされています。社会の学習では課題を持ち、調べて、まとめたりした後、そこで終わりではなく、次の新たな課題を見出していくことが大切だと考えております。

帝国書院の教科書では、単元ごと、各項目で学習課題が設定され、課題解決型の学習ができる工夫がなされており、よいと思いました。また、二次元コードから個別最適な学びにつなげやすい工夫もありました。

私は以上です。

続いて、後藤委員、お願いします。

○後藤委員　地理的分野では、位置や分布、場所の特徴などの地理的な見方・考え方や、問題解決の学習をどのように構成しているか、二次元コードの内容、ＳＤＧｓの扱い、歴史との関連、地図帳との関連などを判断基準にしました。

この点で見ますと、各社工夫した構成が見られてはいますが、現在使っている帝国書院か東京書籍がよりよいと判断いたしました。

以上です。

○森山委員　私からは、地理的分野に関しまして、２社の教科書が望ましいと判断いたしました。

１つは、東京書籍の「新しい社会　地理」という教科書です。これは特に課題解決学習を実現することができるように、単元の構造化が図られている教科書だと思います。特に地理に限らないわけですが、特に地理の学習については記憶物、暗記物という形の議論がよくなされるわけで、そこにメスを入れて課題解決学習を単元の構造化から進めるという教科書の構造になっています。学習段階に考慮した多くのコンテンツをそろえているということも特徴だと思います。加えて、現代的な課題を解決するためにはどうしたらいいかという地理的なところからのアプローチが、この教科書で示されていると思います。そういう意味では、東京書籍の「新しい社会　地理」の教科書がすぐれていると思います。

教育出版の「中学社会　地理　地域にまなぶ」という教科書も非常に整理がされて、十分すぐれた教科書だと思います。特に地理・歴史・公民の学習の大まかなあらましの相互関係を示して、地理と歴史と公民の３つの関係をしっかりと理解できるように、イメージ図を導入したり、あるいは小学校の学習のいわゆる既習事項をしっかりと示して、その上に成り立っている中学校の社会（地理的分野）だという明確な記述がなされています。そういう意味では、教育出版の教科書もすぐれているのではないかと思います。

以上です。

○井上委員　私は帝国書院がいいと思います。地図帳や資料を活用したり、小学校、歴史や公民の学びと関連する資料など、学びを深めるためのマークなどが工夫されている帝国書院が一番適しているのではないかなと考えます。

私から以上です。

○関根委員　地理的分野において、探求的に学ぶということは、現代のグローバル化が進む国際社会において、より広い視野に立ち、日本や世界の地理や気候、地域的な特色などを、社会的条件とのかかわりなどに着目しながら、さまざまな資料に基づいて、多面的・多角的に考察する力を養っていくことが大切です。そのような観点から見まして、子どもたちが資料を活用しながら見方・考え方を働かせ、深くしっかり学習ができるものを選びたいと考えます。

まず、東京書籍では、全ての単元において、導入の部分に資料や「探求課題」が示されています。また、最後には、課題を解決するための「まとめの活動」があり、思考力・判断力・表現力を高める内容になっているところが、子どもたちにとっては見通しを持った学習ができる構成になっていると感じました。

帝国書院についても同じような流れを確認できる工夫が見られます。導入部分に各地域で注目するテーマや視点が明示されていることで、学習の見通しが立てやすくなっており、また、最後の「学習を振り返ろう」では、学習で得た知識を生かしながら、自分の考えを整理できるので、より定着した学習になります。さらには写真、資料、文章がバランスよく配置されていてとても見やすい構成であり、わかりにくい用語をさらに詳しく説明する「解説」や、「地図帳活用」のコーナーもあり、より深く学べる工夫がありました。何より地形図が標高差を含めてとても見やすく、地図帳との学習連携が図られています。

総合的に見まして、私は特によいと感じたこの２社から選びたいと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍１票、帝国書院４票、以上です。

○教育長　投票結果が出ました。投票の結果、帝国書院が過半数、３票以上を獲得しまし

たので、2025年度使用教科用図書、中学校「社会（地理的分野）」は、帝国書院に決定いたします。

続いて、社会（歴史的分野）の教科について審議をいたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

歴史を学ぶ際には、どの時代の出来事なのか、政治や文化史などとの関連、そして、同時期に世界では何が起こっていたのかなどが、わかりやすく、立体的に捉えられることが重要だと考えています。

そのような中、時代の特色や様子が理解しやすく、日本と世界の歴史が捉えやすい工夫がよくなされているのが帝国書院の教科書だと思いました。また、コラム欄には町田市も関係する養蚕・製糸業、「絹の道」なども扱われており、身近なものとして学ぶこともできると感じました。

次に、各委員から意見をお願いいたします。初めに、後藤委員、お願いします。

○後藤委員　社会科（歴史的分野）では、９社の出版社の教科書を吟味しました。出版社によって編集の特徴が大きく異なっていました。やはり町田市の子どもたちにふさわしく問題解決の構成になっているか、個別最適な学びや協働的な学びが一体的に学べる構成か、地理と並行して学習することの関連などを検討しますと、これらに適していないと考えられる教科書もあったのも事実です。

検討の結果、現在使っている帝国書院か東京書籍、教育出版の教科書の構成がよいと考えました。

以上です。

○森山委員　私は歴史的分野に関しまして、教科書発行者によって非常に大きな違いがあるということを感じました。

その中で、東京書籍の「新しい社会　歴史」、教育出版の「中学社会　歴史　未来をひらく」、帝国書院の「社会科　中学生の歴史」が非常にすぐれているものだと判断いたしました。その理由は、やはり社会のさまざまな課題を捉えて、その解決に向けて協働しながら、多面的・多角的に考察をし、持続可能な社会を築いていくために発信できる力に力点が置かれているところに、この３社の教科書が非常に注目するところがあるのではないかと思ったところです。

以上です。

○井上委員　私は帝国書院か日本文教出版がいいのではないかと感じました。

帝国書院は、「スザク号」に乗って時代をさかのぼり、タイムトラベルをしながら歴史を学習していくというスタイルで、見開きで２ページを使った各時代のイラストにとても引き込まれます。

日本文教出版は、ペラペラとめくる部分の目次が一番見やすく、何より「まとめ」と「振り返り」で世界の動きの中で日本の歴史を掘り下げており、線ではなく面で捉えることができるところが他社よりすぐれていると思いました。

私からは以上です。

○関根委員　歴史とは、本来、過去や先人が残したエールのようなものであり、そこには未来へ託されたたくさんの知恵と思いが宿っているのではないかと思います。歴史は、過去の出来事などから、なぜそれが起きたのか。その理由や関係性を考え、その教訓を現代に生かすためにあるのではないかでしょうか。子どもたちが広い視野に立ち、世界の歴史を背景にしながら、日本の歴史の流れをしっかりと捉え、自分の立ち位置から、みずから考えを深められるような教科書を選びたいと思い、研究に当たりました。

今回は９社の教科書がございましたが、それぞれの出版社に特徴がありました。その中から、町田市の子どもたちにとって学びやすいもの、子どもたちの興味・関心を引く工夫がなされているものを考えますと、私は、まず、東京書籍と帝国書院に絞らせていただきました。この２社ともページの右側に年表が示されており、今の学習が長い歴史の中のどのあたりなのかを再認識しながら学べるようになっています。

東京書籍は、各章の初めに、小学校の既習事項がわかりやすいイラストを使った年表でまとめられており、小・中連携を強く意識した工夫がありました。単元の計画としても、探求課題の解決のための道筋や、多様な思考ツールを活用した「振り返り」がわかりやすく、子どもたちにとっても学習の流れが捉えやすいと思います。

帝国書院では、章の初めにタイムトラベルが設けられており、時代の特色やイメージが一目でわかるイラストで、各時代の様子が理解しやすくなっています。これは子どもたちにとって導入しやすく、とてもよいコンテンツだと思います。ほかにも理解しやすいイラスト、豊富な資料、写真、図版がうまくレイアウトされていますし、小学校既習事項、地理や公民との関連、帝国書院の地図帳との関連がアイコンで示されていることもポイントです。

また、コラムにおいて、八王子や町田などの養蚕・製糸業、「絹の道」を取り上げていることと、さらに、多摩地域の自由民権運動の学習では、町田市立自由民権資料館に収蔵

されている資料が紹介されていることなど、町田市の子どもたちにとって身近に感じながら学習ができるメリットもあると考えました。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が１票、帝国書院が３票、日本文教出版が１票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、帝国書院が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「社会（歴史的分野）」は、帝国書院に決定いたします。

続いて、社会（公民的分野）の教科について審議をいたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

公民的分野では、自分たちの生活を振り返り、自分たちの生活をよりよくするにはどうしたらよいかを、子どもたちみずからが考えることができるようにすることが大切だと思います。そのためにも、歴史との関連などもその都度わかりやすく記述されているものがよいと思います。

そのような観点で見たときに、教育出版の教科書では、「公民の窓」を通して、視点を変えたり、視野を広げたりしながら、多角的・多面的な見方を身につけさせる工夫が見られました。また、二次元コードで動画にアクセスしやすいなどの工夫もあり、適していると考えました。

次に、各委員から意見をお願いいたします。初めに、後藤委員、お願いします。

○後藤委員　社会科（公民的分野）では６社の出版社の教科書を吟味いたしました。これも歴史的分野であったように、町田市の子どもにふさわしい町田らしい学びの点で、あまり適していないと考えられる教科書もありました。

公民の特色でもある自分たちの暮らしの現状を知り、よりよい社会を目指して、みずから考え、主体的に社会の形成に参画できるような資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びや協働的な学びを通して、また効果的にデジタルコンテンツを使って多面的・多角的な見方を育てることが必要であると考えます。

これらの点から見ると、現在使っている教育出版か東京書籍がバランスのいい教科書で

あると判断いたしました。

以上です。

○森山委員　社会（公民的分野）につきましては、検討の結果、６社の中から望ましいのではないかというすぐれた２社を選定しました。

１つは東京書籍の「新しい社会　公民」の教科書です。特に小学校の既習事項について「小学校マーク」が記されていまして、新しく学ぶこと、それからこれまで学習したことが非常にわかりやすく教科書の中に記載されています。イラストが非常に多い面では、わかりやすいと思います。加えて、少人数のグループ学習も、公民的な分野の中での学習として位置づくような工夫もなされています。そういう意味で、東京書籍の教科書がすぐれていると思います。

もう１点、教育出版の「中学社会　公民　ともに生きる」という教科書もよろしいかと思います。特に教科書の中で「公民の窓」というのを示しています。これは視点を変えたり、視点を広げたりということで、よく言う多角的・多面的な見方を身につけるというところに「公民の窓」は非常に大きな影響があるのではないかと思います。特に現在、深い学びについては、各教科から特質に応じて見方とか考え方を働かせながら、深い理解とか、思考力とか、判断力とか、表現力などを豊かにしていくことが重要だと言われます。そういう意味で、教育出版の公民の教科書は、そこに力点を置いて編集がなされているという点で、いい教科書だと思いました。

以上です。

○井上委員　私は帝国書院か日本文教出版がいいのではないかと考えます。

帝国書院は、巻頭９ページに「考えを整理する方法」で、「思考ツール」の具体的な活用法を載せています。ただ受け身に教科書を読むのではなく、みずから思考する習慣をつける手段として有効なのではないかと感じました。また、「アクティブ公民」というコーナーでは、「もしも無人島に漂着したら？」や、「一人暮らしにはお金がいくらかかる？」や、「パン屋さんを起業してみよう」など、思わず周りの人と話したくなるような、早く計算してみたいと思わせるような問いの投げかけ方をしており、非常に興味深く感じました。

日本文教出版は、各章の冒頭に４コマ漫画のような導入があり、とっつきやすく感じます。また、どのページにも同じ位置にＱＲコードがついていて、出しやすいのも特徴的であると感じました。

私からは以上です。

〇関根委員　中学校におきまして公民を学ぶということは、子どもたちが広い視野に立って政治や経済など、現代の社会生活や国際社会について理解を深めるとともに、人間としてのあり方や生き方についての自覚を育み、民主的で平和的な国家社会を形成する公民の１人としての資質や能力を養うことです。また、自分の考えをしっかり持ちながら、お互いの理解を深めていく学習も大切ですし、自分が生きる身近な社会から世界へ広がるような学習ができる教科書がよいかと思います。先生方から、公民では二次元コードをかなり使うこと、また、子どもたちが学びやすいものがいいということなどもお聞きしましたので、参考にさせていただきました。

これらのことを踏まえながら研究を進めてまいりましたが、３社に絞ったところで大変悩みました。東京書籍、教育出版、帝国書院のどれも工夫があり、甲乙つけがたいものでした。

東京書籍は、見開きのページごとに二次元コードが入っており、その内容も充実していて、個別最適な学びが支援できると思います。「みんなでチャレンジ」では、小グループで協働的な活動ができるので、対話的な授業を行うこともできます。歴史、地理、公民、地図帳などを関連づけて学習ができるような工夫もありました。

教育出版は、各章の導入部分には「学習の見通し」が示され、中学生がさまざまな活動を行う写真もあり、子どもたちが自分たちの姿を重ねて、身近に感じながら、系統的・横断的な学習に取り組めるような構成になっています。先ほど森山委員からもございましたが、「公民の窓」では、さまざまな角度から単元の学習と関連する事項を取り上げ、より深い学びで多角的・多面的な見方が身につきます。挿絵や写真が大きく、見やすく、二次元コードも充実した内容となっていました。

帝国書院は、各章の冒頭にある「学習の前に」の見開きページで、その単元の学習内容を、イラストを使って読み解きながら学びを見通すことができます。その導入で子どもたちの学習に対する興味や関心を高めることもでき、とても効果的だと思いました。豊富なデジタルコンテンツもポイントの１つです。用語解説、統計資料、図解アニメーション、巻末法令集、NHK for School やリンク集など、子どもたちが自分で学習を深められるようなコンテンツもありました。これらの内容をしっかりと吟味して選びたいと思います。

以上でございます。

〇教育長　各委員から意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が１票、教育出版が３票、帝国書院が１票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、教育出版が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「社会（公民的分野）」は、教育出版に決定いたします。

続いて、地図の教科について審議をいたします。

私から意見を述べさせていただきます。

地図の教科書は、地理的分野の教科書と密接に関連していると感じました。また、二次元コードによるデジタルコンテンツの内容や、町田市との関連等も参考にして考えていきたいと考えていました。

以上です。

次に、各委員から意見をお願いいたします。後藤委員。

○後藤委員　地図は両出版社ともに見やすさと活用しやすさ、それらがよく編集されており、デジタルコンテンツの充実や地理との関連、町田市の施設などの記載なども工夫されていました。地図と地理の教科書が同じ出版社であるほうが効果的であると考えますと、先ほど地理で選ばれた帝国書院の地図がよいと考えます。

以上です。

○森山委員　私は２社の教科書につきましては、世界と日本の地域的特色が捉えられるという観点から、帝国書院の教科書が望ましいものだと思います。特に世界各州の鳥瞰図が掲載されており、これは恐らく生徒にとって興味・関心を引き出すものと思われます。そういう意味で、帝国書院の社会科の地図がすぐれているものと思われます。

以上です。

○井上委員　私は帝国書院がいいと思います。色の濃淡などで土地の隆起がわかりやすく、見やすいのはもちろんのことですが、地理分野の教科書にも対応した地図資料が豊富であることから、関連づけて学びを深める工夫がされていると感じたからです。

私からは以上です。

○関根委員　地図帳を選ぶに当たりまして、まず一番大事なのは、内容がわかりやすく、見やすく、学習において活用しやすいもの、そして何より子どもたちの観たい、知りたい

という意欲につながるものを選びたいと思っております。場所の位置や地形、気候や風土、文化の特徴など、必要な情報をわかりやすく記したものはもちろんのこと、中学生が日本から世界へと視野を広げ、社会科における学力向上の土台になるような、そして自分自身の豊かな人生につながるようなものがよいかと考えます。あと、系統的・効果的な学習のために、地理と同じ出版社の教科書のほうが使いやすいかとも思いました。

これらの観点を踏まえて考えましたが、東京書籍、帝国書院の２社とも内容をよく工夫され、制作されていると感じました。そして、それぞれが社会科３分野も意識して構成され、学習を深められるデジタルコンテンツも充実しており、ＳＤＧｓの扱いについても丁寧でした。

帝国書院の「地図で発見！」では、地理的、歴史的、現代社会など、それぞれの見方・考え方を深められる問いがたくさんあり、子どもたちが主体的・発展的に取り組めるものがあります。また、世界地図を紹介するページには、「日本との結びつき」としての資料があり、子どもたちが世界の中の日本を考え、自分ごととして捉えやすい学習ができます。

そして、つい最近も大きな地震や豪雨による災害などがございました。我が国日本は、その位置や地形、地質、気象などの自然的条件から、災害が発生しやすい国土であることから、私は防災についても着目しておりました。帝国書院は、４ページにもわたって防災に関する詳しい資料があります。これは子どもたちが防災について改めて深く考えられるコンテンツだと思います。日本の主な気象災害の仕組みについての学習ができるものもあり、これは理科の学習にも通ずるところです。地図の文字も大きく見やすく、全体のバランスがとてもよいと思いますので、私は帝国書院の地図がよいかと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

帝国書院が５票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、帝国書院が５票満票ですので、2025年度使用教科用図書、中学校「地図」は、帝国書院に決定いたします。

続いて、数学の教科について審議をいたします。

私から意見を述べさせていただきます。

数学は、小学校で学習している算数と同様、とても系統性の強い教科です。そのため、振り返りがしやすいかどうか、抽象的な数を扱うにしても、自分たちの生活と関連して考えられるかどうかがとても重要になります。

そのような観点から見ていくと、身の回りの題材が取り上げられ、単元の系統性がよく考えられている新興出版社啓林館の教科書が使いやすいと考えました。また、デジタルコンテンツが豊富であることから、視覚的に理解を深めることにも役立っていると感じました。

私からは以上です。

続いて、各委員から意見をお願いいたします。後藤委員、お願いします。

○後藤委員　数学の教科書は、町田の子どもたちの基礎・基本の力をしっかりと伸ばす。そして一方で得意な子どもたちにとっても発展的な学習ができるものであることが期待されます。７社のものですが、いずれの出版社も問題解決学習の展開を重視しており、見通し、ノートへの記述、対話、振り返り、ＩＣＴ活用などを明示して、主体的・対話的で深い学びや協働的な学びができるように構成してあります。

内容面や紙面構成にもあまり大きな差は見られませんが、個別に最適な学びができやすいように、わかりやすさや使いやすさ、家庭学習に適する問題数や、デジタルコンテンツが充実しているものがよりよいと考えます。この点から、現在使用している東京書籍、教育出版、啓林館が適していると考えます。

以上です。

○森山委員　中学校の数学の教科書に関しましては、私は、東京書籍の「新編　新しい数学」と新興出版社啓林館の「未来へひろがる数学」の教科書がすぐれていると判断いたしました。

まず１つ目の東京書籍の教科書につきましては、まさに新しいという言葉がぴたりの教科書であったと感じています。教科書の紙面からアクセスすることができる動画、ほかにもいろいろありますが、動画を中心に1,752点のＱＲコンテンツが用意されているということで、これは恐らく、授業中はもちろんのこと、家庭学習に関して非常に有効に働くものだと思います。加えて、「主体的・対話的で深い学び」に着眼し、これを非常に重要視した教科書のつくりになっていると思います。

この点は新興出版社啓林館も同様で、デジタルコンテンツが非常に豊富であり、カラーで非常に見やすいという特徴を持っています。加えて、系統性というところから検討しま

すと、啓林館ないし東京書籍の教科書については、単元の系統性という点についても非常にすぐれていると判断いたしました。

以上です。

○井上委員　私は東京書籍か啓林館がいいと思います。

東京書籍は、数学が苦手な生徒でも取り組みやすい工夫がたくさんあるように感じました。余白の使い方、図の説明の見やすさなどは一番だと思います。また、表紙にも数学的な意図が含まれていたり、生活に身近な題材を使った導入や、小題や問いなどを直線的な囲いから丸みを帯びたデザインにすることによって堅苦しさを取り払う配慮まで、数学に対する敷居を下げて、まずは取り組んでもらおうというディテールへのこだわりも感じます。さらに、ＱＲコードの位置が固定されており、見つけやすく、家庭学習がしやすい点もポイントだと思いました。

啓林館は、ただ数学の知識をつけるだけではなく、数学を学ぶ意義や、数学を活用して身の回りの問題を解決していくことに重点を置いているところが特徴的だと思います。章や節の導入が非常に簡潔でわかりやすく、演習をたくさんこなすことで定着を図るつくりになっているのがいいなと思いました。

私からは以上です。

○関根委員　中学校における数学は、主に数学的な思考力や表現力を育むことに重点を置き、道筋を立てて体系的に考える力や、数式、図、表、グラフなどを理解する力、物事を論理的に考える力、情報処理能力などを養います。その後の人生で何か問題に直面したとき、学習で得た知識を問題解決に生かせるかどうかは、この能力が大きくかかわってくるのではないかと思います。

先日、ある中学生が「中学校の数学が難し過ぎてついていけなくなったよ。連立方程式や因数分解なんて別に使わないって大人も言ってた。やっても意味があるのかな」と言うので、「そんなことはないよ。例えばショッピング、料理、旅行、自分の健康管理、ニュースや新聞を読むときとか、日常生活で数学が役立つシーンはたくさん存在するんだよ」と説明しました。すると、「あっ、そうか」と深くうなずき、「確かに必要だね。じゃ、勉強しなきゃ」と言い、その子はその後、基本的なことから始めて一生懸命勉強しています。このように、何のために数学を勉強するのかを子どもたちにしっかり理解をさせた上で、町田市の子どもたちに必要な基礎的・基本的な力がつくような教科書を選びたいと思います。

７社ともそれぞれがよく研究されておりましたが、中でも東京書籍の教科書は、身の回りなどの日常場面に即した題材を取り上げ、数学の必要性や有用性を子どもたち自身が感じられるようなつくりになっています。「深い学びのページ」では、学んだことを応用して考える問題もあり、子どもたちが解きたくなるような多様な問題場面に興味・関心を持って学習に取り組めるのではないかと感じました。また、「学びのベース」では、小学校の算数や前の学年の内容を振り返って確認し、これから学ぶ内容のもとになる性質や公式を確認することもできます。

さらに、授業でも自主学習でも使えるデジタルコンテンツでは、導入で使える動画や、マイ教科書、マップ、ワークシート、シミュレーション、対話シート、フラッシュカード、ヒントと解答などなど、一方的ではなく、子どもたちから多様な考えを引き出すような豊富なものがたくさんありました。これらのことを考え、子どもたち一人ひとりに寄り添い、基礎・基本をしっかり習得できる東京書籍がよいかと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が４票、新興出版社啓林館が１票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、東京書籍が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「数学」は、東京書籍に決定いたします。

続いて、理科の教科について審議をいたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

どの教科書も学習内容が身につけられるようによく工夫されていると感じました。なお、理科離れと言われて久しいですが、事象に対して興味・関心を持たせたり、疑問を持たせたりすることがとても大切になります。そのためにも、自分の考えを持つ場面を多く設定している教育出版は、子どもたちの感受性や創造性をかき立てやすいと思いました。また、章末の問題が充実している点も、個に応じるためにもよいのではないかと考えました。

私からは以上です。

続いて、各委員からご意見をお願いいたします。後藤委員、お願いします。

○後藤委員　本来、子どもたちにとって観察や実験などは楽しいはずですが、理科の苦手意識は小学校高学年から中学校になるにつれてふえていきます。また、実験や観察を伴うため、安全指導に徹した教科書での取り扱いが重要となります。子どもの学びやすさが大変重要で、理科嫌い、化学離れしないための教科書が求められます。

いずれの出版社も問題解決学習の流れを大切に、効果的な写真やデジタルコンテンツ、キャラクターを使っての対話的な学び、発展的な内容、活用問題などに工夫が見られます。この中にあって、現在使用している大日本図書の教科書では、他社に比べてサイズが小さく、写真や図なども小さいこと、また、４年前の編集であるため、デジタルコンテンツが少ないことなどが見られました。

安全指導の点は、全学年の巻末に取り扱っている出版社、１年生のみしか扱っていない出版社、必要な場面のみしか掲載していない出版社とさまざまでした。これらを総合的に見て、東京書籍か教育出版が適していると考えます。

以上です。

○森山委員　中学校の理科の教科書について、やはり探求ということをしっかりと押さえていることは多くの教科書に共通するところだったと思います。

その中で、特に東京書籍の教科書は、写真、イラストが大変充実していて、恐らく中学生にとっては、理科学習への意欲が高まるのではないかと感じたところです。先ほど申し上げた探求についても、プロセスを非常に大事にしながら教科書が編集されているという感じを受けました。

それから２社目が、教育出版の「自然の探求　中学理科」の教科書です。これは特に単元ごとに明確な目標が設定されていて、学習する生徒にとって学習に取り組みやすいという特徴があろうかと思います。加えて、探求ということに重点を置いて、学年の冒頭の部分に「探求の進め方」を配置しているところに特徴があるかと思います。いわゆる探求の進め方に沿った指導が、効果的に行われるという教科書のつくりになっているということで、東京書籍と、教育出版の２社を上げたいと思います。

以上です。

○井上委員　私は東京書籍か啓林館がいいと思います。

東京書籍は、写真が大きめで見やすく、理科が苦手でも堅苦しくないところや、「生物カード」やレポートの書き方などがわかりやすいのもとてもよいと感じました。

啓林館は、メディアユニバーサルデザインを採用しており、写真が鮮やか過ぎず、特性

のある子どもたちにも配慮されている点が特徴と言えます。巻頭に「探求をはじめよう」でスタートし、巻末には「探Ｑシート」で深掘りして、興味のある子はどんどん先取りができるという点も、教科書として一貫性があっていいなと感じました。また、実験を正しく安全に進めるために、中１では、８ページにわたり「サイエンス資料」を載せており、実験動画も無駄なＢＧＭなどはなく、シンプルで非常に見やすいところがポイントだと言えます。

私からは以上です。

○関根委員　中学校の理科は、自然に親しみ、自然の事象に対する興味を持ち、関心を高め、見通しや目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に調べる能力と、科学的な見方や考え方を養うことがねらいです。理科の授業を通して子どもたちに問題解決の力をつける力や、科学的に物事を見たり、判断したりすることができる力を身につけられればよいと考えます。それらのことを意識して、今の学校現場で学習するために、いかに子どもたちの好奇心や探求心を引き出し、問題解決していくか。そして、より科学への関心を高められるかという視点で各社の教科書を見てまいりました。

これらの視点を踏まえた上で、５社の中から私が注目したのは、啓林館、教育出版、東京書籍の３社です。どの教科書もよく研究されておりましたが、その中でも課題を把握、追求し、解決へと導く「探求する力」を育てることを大事にしていると感じたのは啓林館の教科書でした。

「探Ｑ実験」では、理科の見方や考え方の手助けになる対話例、自分の考えを書き込める「探Ｑシート」、仮説を立てて話し合うことで主体的・対話的な学びにつながる仮説欄なども用意されています。ちなみに、その探求の過程は１本のラインで示され、全体的な見通しを持ちながら学習ができる構成になっています。章や単元の導入には、不思議な現象や興味深い現象の大きな写真が使われ、興味・関心を持ちながらスムーズに学習に入ることができることも大きなポイントでした。

デジタルコンテンツについても、「はてなスイッチ」、動画を読み取って答える問題、既習事項の確認、「振り返りシート」に加えて、理科で不可欠な実験のスキルや実験動画など、「見るコンテンツから使えるコンテンツへ」を意識したものばかりで、数も多く、高く評価すべき内容でした。

さらには、理科の観察・実験が増える中学校において、安全で確実に行えるように、薬品の分量に配慮したり、安全を確認するステップや、文字とアイコンで示す「注意・安全

マーク」が示されています。また、実験のコツがよくわかる「ポイント」のコーナーをうまく活用することで、観察や実験の技能が自然に身についていくような工夫もありました。

以上のように、この教科書は子どもたちがワクワクしながら理科の世界に引き込まれ、どんどん好きになっていくような教科書だと感じましたので、私は啓林館がよいかと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が１票、教育出版が２票、新興出版社啓林館が２票、以上です。

○教育長　ただいま報告がありましたが、報告のとおり、３票以上獲得した発行者はございません。２票獲得しました教育出版及び新興出版社啓林館の２社で第２回目の投票を行いたいと思います。

改めてご意見はございますでしょうか。－－よろしいでしょうか。

それでは、再度投票用紙の配付をお願いいたします。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

教育出版が３票、新興出版社啓林館が２票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、教育出版が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「理科」は、教育出版に決定いたします。

続いて、音楽（一般）の教科について審議をいたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

音楽の学習では、音楽に親しむという観点がとても大切だと思っています。また、音楽がとても身近なものであり、さまざまなことが音楽を通して表現できるようになること、そしてそれが楽しくできるようにする指導が重要になってきます。そのような指導を進めるため、子どもたちにとって身近な歌手やピアニストを紹介したり、音楽を幅広く記載するなど、広く子どもたちの関心・意欲を喚起する工夫がある教育芸術社がよいのではないかと思いました。

続いて、各委員から意見をお願いいたします。後藤委員からお願いします。

○後藤委員　現在使用している音楽の教科書は教育芸術社ですが、今回の教科書は中学生の学習意欲や関心を高める工夫が一段と配慮されているように思われます。例えば表紙の絵は中学生が音楽を楽しんでいるイラストで表現し、知っている歌手やピアニストを登場させるなど、共感して学べる工夫が多々あります。また、題材ごとの基礎的・基本的な内容を中心に細かく取り扱っている教育出版の教科書と比べ、教育芸術社は基礎的・基本的な内容をわかりやすく取り扱うとともに、発展的な内容も充実しており、バランスよく編集されていると考えます。このようなことから、教育芸術社が適していると判断しました。

以上です。

○森山委員　２社とも生徒に非常にわかりやすい記載がなされている教科書だと思います。特に中学の音楽という教科の特色としては楽しいということが重要なポイントだと思います。この中で両出版社とも生徒にとってわかりやすく、なじみの深い形での題材・教材を取り上げて、教科書の中に単元として位置づけているという特徴があると思います。特に教育出版の場合は、基本的な内容を十分に取り扱っているという点で、非常にわかりやすいという点は評価に値すると思います。

それから、教育芸術社の教科書につきましても、先ほどお話もありましたけれども、表紙を含めて写真、イラスト等、視覚に訴えるというか、非常にわかりやすく、中学生が共感しやすいような教科書になっています。加えて、内容を深く学びたいという生徒にとっては、教育芸術社の教科書は理にかなっていると思います。

以上です。

○井上委員　私は教育芸術社がいいと思います。表紙のイラストの雰囲気も、巻頭のフルカラーの人物紹介も、子どもたちの意欲・関心を引き出すのがうまいつくりになっていると感じました。例えば中１の「イメージと音楽」では、「ジョーズ」、「ゴジラ」、「ハリーポッター」など、誰でも知っている映画を題材に、なぜこの音楽がつくられているのだろうかと楽しみながら深めていくことができるところ、また、こうして学んだことを、テレビやＣＭなど、日常生活にもスライドさせ、視野を広げてみようとつなげているところもとてもいいと感じました。

私からは以上です。

○関根委員　中学校における音楽の教科書に求めることは、音楽を好きな気持ちを育み、豊かな情操を養う教材と学習を設定できるもの、また、学習の見通しが持て、学びを深め

るもの、そして先生方と生徒一人ひとりに寄り添って授業を支えられるものであり、子どもたちが音楽を表現し、鑑賞する力を育てていくことが大事だと思います。音楽教育の目的は、何よりも自分の中にある音楽を最大限に目覚めさせ、音楽の持つ力、すばらしさを子どもたちに伝えることです。そのために豊かな感性を育みながら、音楽によって人間を高めていける、そんな教科書を選びたいと思い、研究してまいりました。

町田市では、中学校連合音楽会として、市内の中学校20校全校の代表が、吹奏楽や合唱を発表する場があります。各学校においても合唱コンクールを開催したり、昼休みに生徒が選んださまざまなジャンルの音楽を流したりしています。そのように音楽に親しみ、触れることがとても多い町田の子どもたちが魅力的に感じる教科書を考えたとき、私は、教育芸術社がよいと思いました。

教育出版も、教育芸術社も、それぞれに写真やイラストを大きく扱い、魅力的な楽曲を選曲しており、また学習の見通しが持ちやすい仕様になっています。では、どこが違うのかという視点で見たときに、調査協議会からのご意見でもありますが、教育出版については、基礎的・基本的な内容がとても充実しているのに対して、発展的な内容については少し物足りなさを感じました。

教育芸術社は、基礎的・基本的な内容がとても詳しく丁寧であり、加えて、学習を深める発展的な内容がとても充実していて、その２つのバランスがとてもよくとれているかと思います。生徒の発達段階に応じて資質・能力を無理なく育むことができるように、３年間の系統性と一貫性も重視しておりますし、歌唱教材や鑑賞教材においても、ワークシートや資料を使ってより深く学べます。デジタルコンテンツについても豊富で、内容も充実しており、授業で行う協働的な学びから個別最適な学びまで配慮されておりました。

何より私がよいと思ったポイントは、さまざまな角度から音楽を捉え、自分にとって音楽とは何だろうと自分自身が音楽に向き合い、より幅広い価値観を持ちながら、自分の世界を広げていけるようなページがあるところです。これらのことから、私は町田市の子どもたちにとってとても適している教科書だと思いました。

以上でございます。

○教育長　各委員からの意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

教育芸術社が５票、以上です。

○教育長　投票の結果、教育芸術社が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「音楽（一般)」は、教育芸術社に決定いたします。

続いて、音楽（器楽合奏）の教科について審議をいたします。

私から意見を述べさせていただきます。

器楽など、楽器の演奏に苦手意識を持っている子どもたちにもわかりやすく、そして興味が持てるように指導することが重要になると思いますが、子どもたちの苦手意識やつまずきもさまざまです。そのため、二次元コードによって子どもたちに応じた学習がしやすく、伴走なども確認できる仕組みになっている教育芸術社がよいと思いました。

私からは以上です。

続いて、後藤委員、お願いいたします。

○後藤委員　音楽（器楽合奏）の教科書は、音楽（一般）の教科書と関連したものを使うことで、より効果的な学びができると考えます。やはり特色的に教育出版が基礎的・基本的な内容に重点を置いているということに比べ、教育芸術社は基礎的・基本的な内容から発展的な内容へつなげるようにバランスよく構成している点が上げられます。さらに、二次元コードを通してのデジタルコンテンツの充実もよりよく、生徒が必要に応じて伴奏や奏法を確認できやすいと思いました。したがって、教育芸術社が適していると判断しました。

以上です。

○森山委員　まず前提として、音楽の教科書の「一般」と「器楽合奏」については、同じ発行者の教科書を使うのが望ましいのではないかと判断いたしました。

加えて、２社の教科書を見ますと、「一般」も「器楽合奏」と同様の特徴があると判断いたしました。特に学びが深まるという観点から言えば、教育芸術社がすぐれていると思います。

以上です。

○井上委員　私は、音楽（一般）の教科書と同じ出版社にしたほうが使いやすいのではないかと考えますので、教育芸術社を推します。ＱＲコードを読み取ると、さまざまな音源やワークシートなど、潤沢な資料が準備されており、ほかのページにも移行しやすく、操作しやすいと感じました。それらは仮に授業中に使い切れなくても、音楽会や合唱祭の練習に使用したり、音楽系の部活動や自宅で理解を深めたいときに役立つことと思います。

私からは以上です。

○関根委員　中学生が器楽の学習を通して、どんな学習ができるか。楽器表現や創作表現につなげ、学びたくなるような教科書については、先ほど音楽（一般分野）で申し上げたとおりです。また、音楽におきまして、一般分野と器楽合奏分野の教科書は同じほうが使いやすいと思いますので、私は、教育芸術社の教科書がよいかと思います。

中学生が音楽の時間によく使用するアルトリコーダーの基本的な運指表が見開きで見やすく、基本練習から独奏、アンサンブルと段階的に配列され、「楽器を知ろう」や「リコーダーの種類」では、この楽器のことをより深く学ぶことができます。「学びのコンパス」では、旋律やリズムなどの特徴について調べたりすることで、「主体的・対話的で深い学び」が期待できると思います。中学生が楽しそうに楽器を奏でている表紙や鮮やかな写真、世界中のさまざまな楽器を紹介する「楽器の図鑑」、そして豊富なデジタルコンテンツは、音楽活動にかかわる機会の少ない子どもたちにとっても、学びたいという学習意欲につながるのではないでしょうか。

以上でございます。

○教育長　各委員からの意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

教育芸術社が５票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、教育芸術社が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「音楽（器楽合奏）」は、教育芸術社に決定いたします。

続いて、美術の教科について審議をいたします。

私から意見を述べさせていただきます。

どの教科書も二次元コードから活用できるコンテンツや動画資料などが充実していました。子どもたちの興味・関心を喚起する工夫がなされていると感じました。開隆堂出版の教科書の表紙の凹凸加工は、作品の質感を肌で感じることができ、とてもよいと思いました。また、アートとして多様な領域を網羅しているのも、子どもたちの感性を刺激すると感じました。

私からは以上です。

続いて、後藤委員、お願いします。

○後藤委員　美術の教科書は、生徒みずからが対象に関心を抱き、見通しをもって作品をつくったり、鑑賞したりして、表現活動を楽しもうとする導きが大切だと思います。この点から見ますと、開隆堂出版は、興味・関心を引く点ではビジュアル的であり、光村図書出版は、キャラクターなどで親しみやすく、生徒自身の発想や構想を大切にしたという印象で、日本文教出版は、細かく説明され、美術と社会のつながりを大切にしているという、それぞれに印象を持ちました。

写真や作品の見やすさ、基本的技術の習得や用具の安全な使い方、二次元コードを活用したデジタルコンテンツなどは、どの出版社も遜色なく取り扱っていると思います。したがいまして、総合的に見て、光村図書出版が適していると判断しました。

以上です。

○森山委員　美術の教科書に関しましては、私は開隆堂出版の教科書が望ましいと判断いたしました。その理由は、この教科書は生徒たちにとって親しみのある作品を多く取り入れています。そういう意味では、生徒たちにとって興味・関心を高める教科書として、ほかの教科書よりもここに力を入れているということで、開隆堂出版の教科書がすぐれていると判断をいたしました。

以上です。

○井上委員　私は開隆堂出版か光村図書出版がいいと思います。

開隆堂出版は、表紙へのこだわりからもわかるように、ダイナミックな配置で原寸大の作品もたくさん納められていて、見ていてとてもわくわくする教科書です。「君の名は」で有名な新海誠監督の作品制作時の様子は中学生の興味を引きますし、さらに「完成しなかった名作よりも、稚拙でも完成した作品のほうがずっと価値があります」という言葉を紹介し、「これでいいのかな」と美術に正解を求めがちな子どもたちに対して、「何でもいいからまずは取りかかってみようよ」とやる気を引き出し、表現してみたいなと思えるところが特徴的です。

光村図書出版は、きっかけづくり、着眼点、発想、表現の工夫など、別冊の資料も含め、ありとあらゆる角度から投げかけ、こんな方法もあったのかと気づかされるような内容になっています。生徒作品はどの出版社も載せていますが、生徒の制作過程はなかなか見ることができないため、等身大のヒントは子どもたちの参考になることと思います。何をつくろうかとイメージしやすい教科書であると言えると思います。

私からは以上です。

○関根委員　中学校における美術は、学習活動を通して感性を豊かにするものです。自分の見方や感じ方を大切にしながら、自らが考え、発想し、工夫して創造することにより、表現力を養います。また、美術作品の鑑賞などの幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜び、楽しさを味わうものです。

どの教科書も取り上げる作品がとても充実していて、表現と鑑賞について深く学習ができるように構成されていると思いました。中でも、一番バランスがとれていると感じたのは光村図書出版です。授業の流れや学びの過程がよくわかり、表現と鑑賞の相互の関係を意識しながら、１つの題材で一体的に学べる紙面構成になっています。制作活動の過程で中学生の様子が描かれており、迷ったときなど、どんなふうに制作すればよいのかをその都度見直すこともできます。

「みんなの工夫」では、子どもたちが主題設定や発想、構想や試行錯誤をしながら練っていく様子があり、ＱＲコードからも動画で見ることもできます。また、紙面で作品を鑑賞した後に、ＱＲコードを使って同じ作品を鑑賞する「体感ミュージアム」では、その作品について、より深く鑑賞ができる画期的なものだと思います。

また、調査協議会の報告の中にもありましたが、さらに鑑賞を深めるツールとして、高精度画像の作品に書き込みながら学習をする書き込みツールがあり、とても使いやすいということでした。別冊の資料には、中学校３年間で必要な知識や資料がコンパクトにまとめられ、いつも手元に置きながら学習ができるので、とても使い勝手がよいと先生からもご意見をいただきました。

また、子どもたちが教科書で学習することをきっかけにして、本物が見たいと思ったときに役立つ美術館や芸術祭などの内容について、そして美術鑑賞をする際の手がかりまで詳しく紹介しているページもあり、子どもたちがより美術の世界を広げられる工夫もありました。これらの理由から、私は光村図書出版がよいかと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

開隆堂出版が２票、光村図書出版が３票、以上です。

〇教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、光村図書出版が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「美術」は、光村図書出版に決定いたします。

ここで12時になりましたので、一旦休憩いたします。再開は午後１時からとなります。午後の教科書は保健体育の教科書からの採択といたします。

休憩いたします。

午前11時59分　休憩

〇教育総務課長　傍聴者の方にご連絡いたします。

ただいまから１時間の休憩に入ります。休憩時間中は会議室を施錠いたしますので、傍聴人の皆様は全ての手荷物と傍聴券を持ってご退室くださいますようお願いいたします。

なお、教育委員会臨時会は午後１時から開催いたします。この会議室は20分前から開場いたしますので、引き続き傍聴を希望される方は、開催の10分前までにご着席ください。その際に傍聴券を確認させていただきますので、ご協力をお願いいたします。また、ここでお帰りになられる方は受付職員に傍聴券をご返却ください。よろしくお願いいたします。

――――――――――――――――――――――――――――――――

午後１時00分　再開

〇教育長　再開いたします。

休憩前に引き続き、保健体育の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、まず、私から意見を述べさせていただきます。

保健体育においては、健康や安全に関する内容を自分の生活と結びつけて、自分ごととして考えられるように指導することが肝要だと考えています。その際、発達段階に応じて指導することも重要であり、小学校での学びや高等学校での学びについて触れてある東京書籍は適切だと思いました。また、どこの会社もそうですが、二次元コードも充実しており、個に応じた資料にもなっていると感じました。

私からは以上です。

続いて、各委員から意見をお願いいたします。後藤委員、お願いいたします。

○後藤委員　保健体育の教科書は、１年生から３年生までの３年間にわたって同一のものが使用されます。まず、単元や教材については、どの出版社も個別最適な学びや協働的な学びに対応するように工夫されていますが、内容の構成に若干の差異が見られました。

その違いの１つとして、「生殖機能の成熟」の内容では、男女の機能を分けて構成しているものと一緒に構成しているものとがありますけれども、男女共修をするには一緒に構成しているものが学びやすいのではないかと考えます。

また、生徒が身近に興味・関心を持ちやすい内容として、新型コロナウイルス感染症の扱いや東京オリンピック・パラリンピックを初め、国際的スポーツ大会の扱いでは、写真や構成、デジタルコンテンツに差異が見られました。さらに、町田市が重視している熱中症予防や全員給食開始を見据えてのアレルギーの内容にも違いがありました。その結果、これらを総合的に判断しますと、バランスよく構成されているのが Gakken の教科書でありました。

以上です。

○森山委員　保健体育の教科書につきましては、東京書籍の「新編　新しい保健体育」と、大修館書店の「最新　中学校保健体育」の２冊を候補に挙げております。

東京書籍の保健体育の教科書につきましては、特に小学校と高等学校というちょうど中学校の前後の学校段階に学ぶべき内容が示されていて、その中で、中学校で何を学ぶのかという位置づけが明確にされています。そういう意味では、非常に理解しやすい内容の１つになっていると思います。加えて、巻末に健康と安全に関するまとめが全て記載されていますので、生徒がもう少し深く学ぶとか広く学ぶ場合には、巻末のまとめに関する工夫が非常にいい方向に出るのではないかと思います。

大修館書店の「最新　中学校保健体育」の教科書ですが、これは特に課題をつかんで、いわゆる発展的な内容をもとに、今度は、学習のまとめをして、掘り下げていくとか深めていく。こういう一連の流れが教科書の中でしっかりと構成されており、生徒が学ぶという意味ではこの教科書が非常に適しているのではないかと思いました。

以上です。

○井上委員　私は東京書籍か Gakken がいいと思います。

東京書籍は、章の扉に、小学校での既習事項の振り返りと、高校で学ぶ内容が記載されており、自習するときも見通しが立てやすく、これから学ぶことは全体の流れの一部であ

るということをつかむことができて非常によいと思いました。

Gakken は、写真にインパクトがあります。章の終わりに、振り返りの自己評価記入欄があり、理解度を自分で検証したり、教員が把握するのに役立ちます。また、１週間の生活チェックなど、自分ごととして捉えやすい工夫がある点がいいなと思いました。

私からは以上です。

○関根委員　中学校の保健体育分野では、心と体を一体として捉えて、運動や健康、安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てること、そして健康の保持増進のための実践力を育成することを学びます。そこで、町田の子どもたちにとってこれらのことがしっかりと学習できる教科書を選びたいと思い、教科書研究させていただきました。

中学生が心身ともに著しく成長するこの多感な時期において、私が懸念することは、まず、心と体の発達によって生じるストレスです。それが不登校につながったり、さらに悪い方向へ行くこともあります。ですから、思春期の心の発達をきちんと理解でき、心と体のかかわりや、ストレスの対処の仕方や、リラクゼーションの方法、ＳＯＳの出し方、相談窓口などがあることは必須条件だと思っています。その点、東京書籍、大修館書店、Gakken とも、とても手厚く明記してありました。

そのほかの各社の特徴として、東京書籍は、巻末に「スキルブック」として、命や健康を守るために必要なスキルをいつでも確認できるようになっているので、子どもたちも先生方もとても使いやすいかなと思いました。人体の骨格や筋肉のページのデジタルコンテンツの３Ｄ画像は、どの角度からも見ることができるので、子どもたちにとって興味を引き、とても理解しやすいものになっています。

大修館書店は、社会の急速な変化とその課題に対応したたくさんの資料があり、子どもたちの心と体を取り巻く健康課題について、正しい知識を得るとともに、その対処法も掲載され、とても深い学びができると思います。そして、デジタルコンテンツの内容がとても充実しており、数も多く、教科書への理解が深まる動画や、調べ学習に役立つサイト、ワークシート、保体クイズなどがあり、楽しみながらも確実に知識が定着する工夫もありました。

Gakken では、中学生の身近な課題にもなり得る喫煙、飲酒、薬物乱用について、デジタルコンテンツのシミュレーション教材の中で、誘いを断る実習ができるようなものもあります。紙面においてもとても丁寧に取り上げているので、より探求的な学習ができます。

性の多様性については、探求的に扱い、イメージを固定化せず、正しく理解できるように、あえてイラストや写真を用いずに構成しているところがなるほどと思いました。また、調査協議会の報告にもありましたが、アレルギーについても１ページを使ってとても丁寧に扱われており、町田市の中学校において、今年度の３学期から学校給食が始まることを考えると、ぜひとも学んでおきたい項目です。

これらのことから、私はこの３社から選びたいと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が１票、大修館書店が１票、Gakkenが３票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、Gakken が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「保健体育」は、Gakkenに決定いたします。

続きまして、技術・家庭（技術分野）の教科について審議をいたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

技術分野においては、作業や実習なども大切ですが、教科の特性からも、ＩＣＴの活用なども大切だと考えています。東京書籍や開隆堂出版では、二次元コードの利用も工夫されていますが、開隆堂出版では動画コンテンツが多く、また１つの作業におけるカメラの視点が複数あり、視覚的に思考を助けるようになっています。さまざまな課題を解決する学習においては役に立つのではないかと思いました。

以上でございます。

次に、各委員から意見をお願いいたします。後藤委員、お願いいたします。

○後藤委員　技術・家庭科（技術分野）の３社の教科書は、いずれも巻頭のガイダンスで、技術の内容や役割、学び方、安全などについて、わかりやすく、基礎的理解を図り、学びやすい工夫が、前回の教科書もそうでしたが、同様に見られています。

現在使用している東京書籍の教科書は、道具の使い方がわかりやすく、紙面やデジタルコンテンツの動画で学びやすいという点、思考ツールを活用、まとめや発表などの学び方を丁寧に示しているという点、ＳＤＧｓとテクノロジーの関連をわかりやすく示している

という点ですぐれていると思います。

以上です。

○森山委員　私からは、この３社の教科書を確認いたしましたが、それぞれ特徴を持っており、全体を通してＱＲコンテンツが非常に豊富にあって、個別最適な学び、協働的な学びに対応できている教科書であると思いました。

その中で、特に東京書籍の教科書につきましては、系統性を考えて配列されているという点と、それぞれの分野の問題解決の内容が、具体例は少なくして、これは生徒にもう少し積極的に考えてもらいたいという意図で構成されていると判断いたしました。そういう意味では、学習方法として今の学習指導要領に最適な教科書ではないかと思います。

もう１点は、開隆堂出版の技術・家庭（技術分野）の教科書です。これは学習のポイントが非常に明確に示されていることに特徴があると思います。問題解決の例を見ますと、それぞれの章の実習の例が多く記載されていまして、それぞれ学校の授業に合わせて、実習でこの教科書が非常に使いやすく、問題解決の例をふんだんに使って授業が展開されることが想定されました。

以上です。

○井上委員　私は東京書籍がいいと思います。重要語句や道具の使い方が端的でわかりやすいと感じました。また、「材料と加工の技術」では、スマホスタンドや透明のプラスチックを使ったフォトスタンドなど、中学生の目線を意識して取り入れていることがわかります。また、ところどころに「技術の匠」が紹介されており、どんな仕事なのか、なぜその職業についたのかを知ることができ、ふだんあまり知ることのできない分野に触れる機会は貴重だと思いました。

私からは以上です。

○関根委員　中学校における技術分野は、技術の見方・考え方を働かせ、物づくりなど材料加工、エネルギー変換、生物育成、情報に関しての技術を実践的・体験的な学習を通して、生活に必要な知識・技術を習得します。そして技術によって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身につけていきます。

教科書においては、これらのことをしっかりと網羅し、さらに私たちの身の回りにあふれる情報の技術について、特に情報セキュリティや情報モラルなど、把握しておくべき部分にしっかり言及しているか。また、プログラミングの基礎となる部分をきちんとカバーしつつ、中学生にも理解できるような表現をしているかという点にも着目しました。

これらの視点で見ていきますと、情報の技術につきましては、３社とも丁寧でわかりやすい表現でしたので、子どもたちにとっても学びやすいかと思います。

その中でも、学習内容の文章とイラスト、写真、図表などのバランスがよいと感じたのは、東京書籍と開隆堂出版です。

東京書籍は、学習の流れや問題解決の道筋がよく見える紙面構成で、多彩なテーマを取り上げ、問題解決例もたくさんあり、生徒が学びやすく、先生も教えやすいと思います。また、調査協議会の報告書にもありましたが、道具の使い方が端的に説明されており、二次元コードでは、動画によってより詳しく説明されていて、安心・安全に使えるよう工夫されていました。さらには、持続可能な社会の構築のために技術が果たしている役割を考えられるようなＳＤＧｓと技術のかかわりや、新しい技術の融合によって私たちが目指す豊かな未来のイメージをわかりやすくまとめた Society5.0と関連する技術を紹介するページもあり、これは子どもたちが夢を持って豊かな未来を描けるような手助けになる内容でした。

開隆堂出版は、ガイダンスのページで、私たちの生活の中で使う身近な製品から、技術の見方や考え方への気づきや、その製品の工夫や仕組みを読み取って、なぜこの製品が開発されたんだろうというところで考えるプロセスが詳しく載っています。それは子どもたちの考えをより深め、学ぶ意欲の向上にもつながっていくのではないかと思います。デジタルコンテンツについても内容の種類が多岐にわたり、学習と一体化していて、さまざまな角度から撮影された作業状況を見ることができ、とても理解しやすく、使いやすいと感じました。

このほかにも優れたところがたくさんありましたので、私はこの２社から選びたいと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員からの意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が４票、開隆堂出版が１票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、東京書籍が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「技術・家庭（技術分

野)」は、東京書籍に決定いたします。

続いて、技術・家庭科（家庭分野）の教科について審議をいたします。

私から意見を述べさせていただきます。

東京書籍と開隆堂出版ではデジタルコンテンツが充実しており、動画などを通して学びを深められるように工夫されていました。

また、家庭における自分の役割や地域社会における自分の役割を学ぶことが重要になりますが、東京書籍では、多様な視点から子どもたちが学習できるように内容の配列をしており、指導する側も学ぶ側もわかりやすいのではないかと考えました。

以上です。

次に、各委員からご意見をお願いいたします。後藤委員、お願いします。

○後藤委員　技術・家庭科（家庭分野）の３社の教科書は、巻頭のガイダンスで、家庭科の内容、学び方、安全、ＳＤＧｓなどについて、それぞれ特徴ある構成をしています。各内容の紙面構成も課題解決型になっている点や、二次元コードのデジタルコンテンツの充実、キャラクターや吹き出しによる課題の考え方の導きなどが工夫され、いずれの教科書もわかりやすく、学びやすいものとなって、あまり大きな差異は見られません。

現在、使用している開隆堂出版の教科書は、今回もゆとりのある紙面構成で、文章やイラストや写真などが大変バランスよく構成されており、生徒に見やすく、わかりやすく、目的意識を持って学べるという構成であると考えます。したがって、開隆堂出版が適していると判断しました。

以上です。

○森山委員　技術・家庭科（家庭分野）の教科書につきましては、３社ともＱＲコンテンツ等が用意されていて、そういう面での差があまり見られなかったと思います。

ただし、東京書籍の「新しい技術・家庭　家庭分野　自立と共生を目指して」の教科書については、豊富なコンテンツが用意されているだけではなく、書体についてもユニバーサルデザインフォントが採用されています。このような非常に細かいところかもしれませんが、生徒たちにとって、少しでも新しいものを導入して、わかりやすい教科書に編集しているところが見られます。

それから、開隆堂出版の「技術・家庭　家庭分野　自立しともに支え合う生活へ」という教科書については、特にイラストあるいは写真が多く配置されて、生徒にとっては非常に興味を引くような内容になっているかと思います。加えて、ＳＤＧｓ、誰一人取り残さ

ないというところについては、非常にしっかりと取り扱いをしていることも特徴かと思います。

この２つの会社から出版される教科書の中から選定したいと思います。

以上です。

○井上委員　私は開隆堂出版がいいと思います。実物大の写真や資料によって、わかりやすく、かつ効果的に学習を進められる点がすぐれていると思いました。また、中学校での生活にどのぐらい費用がかかっているか調べてみようというコーナーがあり、出生から中学生までの生活を支える公的なお金についても解説があります。今、自分たちが中学校生活を当たり前に送れているのは、こうした支えがあってこそなのだということに気づき、家庭科を通して、自分の将来について考えるきっかけになってくれたらいいなと感じました。

私からは以上です。

○関根委員　中学校の家庭科教育では、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生涯にわたって生活者として自立していくための基礎となる知識や技術を習得させることが重要な目的です。小学校では、支えられている自分から、支える自分に向けての学習でしたが、中学校では、自立と共生に向かって学びを展開していきます。授業内容としては、人の暮らしにかかわること全てが対象となるために、かなり広い範囲の知識や技術が必要とされる科目です。そして、家庭そのものの機能と重要性について理解を深め、これからの生活に、課題を持って、生活をよりよくしようと工夫しながら、創造する能力と実践的な態度を育てていかなければならないと思います。子どもたちにとって、楽しく取り組んでいるうちに、自然と深く広い学びに入っていく授業が実践できるような教科書をと思い、調査・研究に当たりました。

３社ともそれぞれ特徴はあるものの、家庭に関する主なポイントは押さえられておりました。私は、技術や家庭分野においては、特にガイダンスの部分が非常に大事だと思っております。特に家庭分野における中学生の自立と共生については、生徒たちが理解しやすいように、わかりやすく書かれたものを選びたいと考えております。この点を比較しますと、東京書籍と開隆堂出版がページを多く割き、より丁寧に書かれておりました。

ほかにもこの２社について、特にここがいいと感じた部分を述べたいと思います。

東京書籍については、調査協議会の報告書にもありましたが、年間指導計画や生徒の発達段階を考慮して、学びやすく、適切な順序で配置されており、生徒にとっても先生にと

ってもわかりやすく、使いやすい配慮がありました。写真やイラスト、図表などが多く、実物大の写真で示しているので、実感を持って学べます。

デジタルコンテンツの内容も充実しており、特に「Ｄマーク」の表示があることでわかりやすく、基礎技能などがいつでも確かめられるので、授業中だけではなく、家庭での実践にも役立ちます。また、ゲーム形式で学べるシミュレーションもあり、実習をサポートして実践力を高めるコンテンツとして非常に有効です。あと、失敗例の掲載もあり、失敗例から正しい方法を学ぶことができるところもいいなと思いました。

開隆堂出版は、ガイダンスで、自立と共生は表裏一体であることを示し、さまざまな立場の人たちとの共生生活について考えながら、自分自身が自立し、生きる力を身につけていくことが大事である、とあります。これは私も大いに共感できるところでした。

さらに、全体的にはどれもが視覚的にわかりやすく表示され、問題解決の手がかりとなったり、理解を助ける科学的資料や挿絵がたくさんありました。なぜそのようになっているのか、その科学的根拠についてしっかり考えて、納得して理解できるようになっているところも評価できます。生活の身近な疑問についても、クイズやＱ＆Ａ、図や写真で興味や関心を持って学習ができ、ＳＤＧｓにもしっかりと触れていました。

また、「先輩からのエール」、「地域の取り組み」、「中学生の取り組み」では、学習内容にかかわる職業や地域、中学生のことを紹介しています。「先輩からのメッセージ」では、現代の課題でもあるヤングケアラー、子ども食堂、子どもの居場所づくり、持続可能な農業、リサイクル品の企画開発、健康に役立つ栄養士など、それらに関連するさまざまな職業の話もあり、生徒の視野を広げて、進路や将来、そしてキャリア教育にもつながる話がありました。

これらのことから、私はこの２社から選びたいと考えます。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が１票、開隆堂出版が４票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。投票の結果、開隆堂出版が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「技術・家庭（家庭

分野)」は、開隆堂出版に決定いたします。

続いて、英語の教科について審議をいたします。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

どの教科もよく工夫がなされていると感じました。英語の学習は、しっかり聞き取り、しっかり話すことが大切であり、英語で話すなど、積極的に授業に臨めるようにすることが大事だと考えています。各教科書とも各単元の初めに学習の「GOAL」が示されるなど、学習目的を意識しながら学ぶことができるつくりになっていると感じました。

その中で、三省堂の教科書は付録が豊富であり、子どもたちが多くの英文に触れる機会になっているとともに、二次元コードの活用で、家庭学習にも適したつくりになっているのが、個別学習にもつなげていけるのではないかと感じました。

私からは以上です。

次に、各委員から意見をお願いいたします。後藤委員、お願いします。

○後藤委員　中学校英語科は、小学校英語科との連携を工夫し、いかに中学校らしい学びで構成されているかという点を重視して見ました。６社の教科書はそれぞれに特色を出しながらも、小学校で学んだアクティブな活動と連携して興味・関心を高め、中学校英語へ導き、英語の学び方や教科書の使い方などを丁寧に扱っています。

また、登場人物を設定し、知識や技能を習得し、対話し、発信し、振り返るなど、生徒が見通しを持って学ぶことや、デジタルコンテンツを活用して学ぶことが工夫され、理解が深まり、コミュニケーション能力が育まれるように考えられています。

中でも、現在使用している光村図書出版は、登場人物が３年間にわたって成長していくようにストーリー構成され、中学生が共感的に学べる点が評価できます。このように文脈ある学びが、町田市の中学生が親しみを持って学べることにつながると考えます。したがって、光村図書出版が適していると判断します。

以上です。

○森山委員　私は、外国語科「英語」の教科書については、東京書籍の「NEW HORIZON」の教科書と、三省堂の「NEW CROWN」の教科書の２つが望ましいと判断いたしました。

東京書籍の「NEW HORIZON」につきましては、単元の初めに「GOAL」が非常にわかりやすく明示されていて、その力を育成するということが明確に示されています。これは目的とか、場面とか、状況が理解しやすいように、この教科書の中で工夫がなされているということです。これは生徒が見通しを持って学習できる。それを進める上で非常に有効に

働くと思います。加えて、小・中接続に関しても非常に配慮した教科書であると思います。

２つ目の三省堂の「NEW CROWN」の教科書については、特に学びやすい構成になっていることが一番大きな特徴になるかと思います。加えて、デジタルコンテンツについても豊富に準備がされ、英語の学習を特に楽しんで学べるというか、どんどん学びたくなるような工夫がある。教科書の単元で取り扱う材料も含めて、そういう特徴があろうかと思います。それは学習意欲の向上にもつながっていくだろうということで、三省堂の「NEW CROWN」の教科書も非常にすぐれていると思います。

以上です。

○井上委員　私は三省堂か光村図書出版がいいと思います。

三省堂は、ポップな色遣いとアニメのようなイラストが中学生にとって見やすく、苦手意識を持つことなく、スムーズに英語を学ぶことができそうです。また、資料やデジタルコンテンツが大変充実しており、家庭での予習復習や、学校に通えない子どもたちが自主学習するに当たって理解しやすいのではないかと感じました。

光村図書出版は、３年間にわたって成長していく等身大のキャラクターたちの物語に引き込まれ、続きが知りたい、もっと読みたいというわくわくした気持ちにさせられます。英文に慣れるまでは、会話形式で吹き出しになっていたり、チャットのやりとりを読み解くようなページ構成になっている点も工夫がされているなと感じました。

私からは以上です。

○関根委員　中学校での英語教育では、コミュニケーション能力の基礎を養い、簡単な情報交換や、聞く、話す、読む、書くなどの４つの技能の基礎を養うことが目的です。ですから、英語を和訳する能力に有用な語彙力をつけたり、リスニング力や英作文力、正しい発音ができ、積極的に話せる能力などがバランスよくしっかりと身につく手助けとなる教科書が必要です。それには、小学校英語の復習もでき、今までの学習を通して、苦手分野を残さず、全ての分野が深く学べるものがよいかと思います。

「えいごのまちだ」として英語教育に力を入れている本市にふさわしいものであり、子どもたちには、なぜ英語を学ぶのかという意識を持ちながら、教科書を使って、興味・関心を持って楽しく学んでほしいと思っています。

これらの観点で各社の教科書を見ていきますと、各社とも英語の４技能のバランスがよく、中学生に触れてほしい内容の教材を取り上げられていると感じましたが、中でも私は、特に東京書籍、三省堂、光村図書出版がよいと思いました。

東京書籍は、初めに「GOAL」が明示されており、各単元の「Activity」を少しずつ積み重ねていくことによって、最後の「Unit Activity」で「GOAL」の活動に取り組み、着実に力がついていく段階的な構成です。また、グローバルな国際社会で生きていくために、世界の多様な文化や価値観を伝える「ダイバーシティメモ」というコラムで、異文化への好奇心や多様性の理解を深めることもできます。ほかにもＳＤＧｓや日本の伝統文化、国際社会について、道徳、防災、人権などに向き合う題材も豊富で、広い視野に立って学習ができる工夫もありました。デジタルコンテンツは８段階で速さを調節できる機能もあり、自分のペースで繰り返し学習ができるところも特徴の１つです。

三省堂は、こちらも目標に向かって、「扉」から段階的に学びを積み重ねていく構成です。最後の「Goal Activity」では、文を組み立てて書いたり、発音や伝え方を工夫して発表したり、英文の概要や要点を読み取れるものもあり、どんな力が身についたかを、生徒たちが自分で実感できるようになっているところがよいと思いました。リアルな場面を設定して、目的や場面、状況によって必然的に英語を使う学習もあり、道案内や買い物、新作映画の予告編やチケットから情報を読み取れるような生きた英語に直結するようなページもあります。

また、教科書のほぼ全てのページにあるデジタルコンテンツは、とても豊富な量と内容で、授業の復習ができる本文アニメーション、発音チェック、文法の復習、英和辞典機能、ドリル、単語練習、題材の資料映像まであります。小学校の英語を整理し、楽しく振り返る「サイコロトーク」など、中学校の学びにつなぐ楽しい工夫もありますし、小学校の教科書も三省堂ですので、系統的に学べるのではないかとも思いました。

光村図書出版は、各学年の巻末にある「CAN-DO」リストで、学年全体の領域別到達目標と学習の現在地がわかります。また、その過程やこの先のイメージなどが一覧表で視覚的に把握でき、見通しを持って学習を進めることができます。各ユニットには「扉」、「Part」、「Goal」の３つで構成され、最後の「Goal」で振り返ることで、学習のまとめができます。

また、学年が上がるごとに、登場人物のキャラクターがともに成長し、ドラマティックなつながりもあり、その次が読みたくなるようなストーリー性も持っているので、生徒たちも感情移入をしやすく、楽しく英語が学べるところも魅力です。まとまった分量の文章を読み、目的に応じた読み方を身につける教材には、読み物そのものを楽しむものや、キャリア、情報、科学、福祉、平和、地球環境など、多岐にわたった材料も取りそろえてい

ます。デジタルコンテンツには、実写ドラマや文法、ピクチャーカード、ミニアニメ、スピーキングテストもあり、エキストラストーリーでは、教科書のストーリーの続きや番外編などがあり、生徒たちの興味を引き、楽しみながら学習ができるのではないでしょうか。

これらの内容から、私はこの３社から選びたいと思います。

以上でございます。

○教育長　各委員から意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が１票、三省堂が２票、光村図書出版が２票、以上です。

○教育長　ただいま投票結果の発表がありました。今あったとおり、東京書籍１票、三省堂２票、光村図書出版が２票となっておりますので、３票以上獲得した発行者はございません。ですので、２票獲得しました三省堂及び光村図書出版の２社で第２回目の投票を行いたいと思います。

改めてご意見はございますでしょうか。――よろしいでしょうか。

それでは再度、投票用紙の配付をお願いいたします。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

三省堂が３票、光村図書出版が２票、以上です。

○教育長　ただいまの投票結果の発表のとおり、三省堂が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025年度使用教科用図書、中学校「英語」は、三省堂に決定いたします。

続いて、道徳の教科について審議をさせていただきます。

まず、私から意見を述べさせていただきます。

道徳では、自分を振り返り、しっかりと自己開示ができることが大切です。そのためにも、教材から自分なりの考えを持ち、どのような自分になりたいのか、自分はどのように生きたいのかなどを考えさせるようになっていることが望ましいと考えます。そして、今直面するさまざまな問題などを取り入れて興味・関心を持たせ、自分ごととして考えられるようにさせることが大切です。そのような観点や町田市の実態から、教育出版が適切ではないかと考えました。

以上です。

続いて、委員の皆様からお願いいたします。後藤委員、お願いします。

○後藤委員　教科書の巻頭に、教材と出会って問題に気づき、自分で考え、友達と議論してみずからの考えを深め、これからの生活に生かしたり、生き方につなげたりしていけるような道徳の学び方を明示しているものがよりよいものだと考えます。また、授業の終末の振り返りは重要ですけれども、毎時間パターン化したワークシートへの書き込みは、生徒の多様な考えを整理するにはあまり適さず、教師が内容によってさまざまな振り返り方法を工夫することが必要だと考えます。

また、巻末に学期ごとや１年間といった一定のまとまりごとに、道徳の学びを振り返るページを設けていることは意味のあることだと思います。これらの学び方、振り返りの点で見ると、現在使用しているGakken、東京書籍、教育出版がよりよいと考えます。

教材については、前々から続いている普遍的なものと、現代の生徒にかかわる課題などをバランスよく取り入れている教科書がいいのではないかと考えています。中でも、町田市で重要視する課題であるいじめ、ＳＮＳなどの情報モラルなどの扱いは、読み物の教材だけではなく、いじめの構造図や、ＳＮＳ画面、データなど、リアリティーのある教材を活用してダイレクトに学ぶことが、課題解決につながる学びとして重要であり、教育委員会としての強い願いではないかと考えます。この点では、教育出版、日本文教出版の取り扱いが適していると考えます。

以上です。

○森山委員　道徳の教科書につきましては、まず、東京書籍の「新しい道徳」と、教育出版の「中学道徳　とびだそう未来へ」の２つの教科書が望ましいのではないかと判断いたしました。

この理由につきましては、まず、「新しい道徳」は、教材の初めに「学習のテーマ」が配置されて、重要点がはっきりとわかるように工夫された教科書であるということです。それからもう１点は、教材が工夫されていると思います。特に防災とか、ＳＤＧｓとか、多様性とか、こういう現代的な課題を考える教材が充実したものになっているのではないかと考えます。

それからもう一冊の教育出版の「中学道徳　とびだそう未来へ」に関しましては、考えること、そして話し合うことを引き出して、「主体的・対話的で深い学び」につなげていく。この内容にしっかりと力を入れているという編集の工夫が見られると思います。加えて、教材も写真とかイラストが非常に多く取り入れられていますので、先ほど東京書籍の

ところでも申し上げましたが、現代的な内容を多く扱っていることについても、生徒が興味・関心を持って学習に取り組める教科書ではないかと思います。

以上です。

○井上委員　私は東京書籍か教育出版がいいと思いました。

東京書籍は、ＳＮＳで人気の芸人や有名なユーチューバーなど、「あっ、この人知ってる」と興味を引くような話から、古典的なもの、時代を反映したものなど、幅広いジャンルの話がバランスよく配されており、道徳の授業が終わった後も、つい話題に出したくなるような興味深い題材が多いように感じました。

教育出版は、現代的で具体的な内容を多く扱っているところがいいと思いました。実際に中学生の間に、ＳＮＳでよく起こるトラブルを問題提起していたり、中１から中３まで共通する登場人物たちの話が出てきて、「あっ、出た出た、この人たち」とか、「自分と同じ悩みがあるな」などと、生徒にとって身近な話題は主体的な話し合い活動につながりやすいのではないかなと思いました。

私からは以上です。

○関根委員　中学校の道徳教育において、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、まず、生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、あらゆる価値観の存在を前提にして、他人と対話したり、協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められます。人と人が互いに尊重し、協働して社会を形づくっていく上で、ルールやマナーを学び、規範意識などを育むとともに、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か。自分はどのように生きるべきかを深く考え、そのきっかけとなるような教材に出会える教科書であるべきだと考えました。

７社それぞれ特徴や工夫がございましたが、私は、週１回のたった50分しかない授業時間の中で、教材を読み、その後でさまざまな生徒の意見を出し合いながら議論し、深く考えるためには、教科書の構成がわかりやすく、取り扱う教材の内容や分量に配慮したものが適切だと思っております。さらに、生徒たちの考えを引き出すためには、各項目のねらいや発問がシンプルで、価値観の押しつけにならないようなものがよいと考えます。加えて、町田市で特に力を入れているいじめ問題対策など、現代の課題を意識した教材がしっかりそろっていることも条件です。

そのような観点から、調査協議会の報告書も参考にしながら考え、総合的に判断いたしまして、私は、教育出版、東京書籍、Gakken の３社に絞らせていただきました。

主な特徴を見ていきますと、教育出版の「まなびリンク」は、とてもよくできていると感じました。授業や家庭学習に役立つ動画や写真、図版、ワークシートなどが、とても質の高いデジタルコンテンツで、協働学習、個別学習、家庭学習のそれぞれの場面で活用でき、使いやすいと思います。教材については、いじめ問題はもちろん、命の尊さ、生命倫理問題、ＳＤＧｓ、キャリア教育、スポーツ、伝統文化、伝記、情報モラル、安全、防災、多様性にもしっかり触れていました。

東京書籍は、「考え、議論する道徳」を実現するための新感覚の教材がとても興味深いものでした。印象深いポスターや写真を見て考える教材、命について考える防災・道徳教材、NHK for School 教材、グラフを使って考える教材など、内容を一目で把握して、考えたり、話し合ったりできるので、時間を確保できますし、文章を読むことが苦手な生徒も積極的に取り組めます。

ユーチューバーや分身ロボットなど、生徒に身近なものであり、現代的な課題を扱った教材や、定番教材も豊富で、いじめ問題、命の尊さ、防災、情報モラル、ＳＤＧｓ、多様性など、とても充実しておりました。また、１年間の学習の流れと、１時間の学習の流れについてもわかりやすく示してあり、先生にも生徒にとっても使いやすい仕様になっています。

Gakken は、教材を読み、問題意識を高めた上で、「考えを深める４つのステップ」を通して、生徒一人ひとりが自分の中で考えを深めながら、そして周りの人とかかわりながら、その学びを振り返ることで、これからの生き方に生かしていくという構成で、個別最適、協働的な学びができます。

教材内容も、命、いじめ防止、ＳＤＧｓ、多様性、安全、防災、キャリア教育、情報モラル、伝統文化などに加えて、私が注目したのは、ストレスのかかる環境の中で現代を生きる生徒たちをサポートするために、その困難を乗り越える力、「レジリエンス」という分野で、その力を後押しできるような教材も入れているところでした。これは、しなやかに強く生きる力にもつながる大切な分野だと思います。

以上のように、各社とも魅力的なつくりで大変悩むところです。中学生ともなると、さまざまな経験値も高くなります。成長に伴ってたくさんのことを学び、周りの情報から知識も得られ、自分で深く考えられるようになります。その多感な時期によい教科書と出会い、生き抜く力を育てながら、一人ひとりのウェルビーイングへとつながるような、そんな教科書を選びたいと思います。

以上でございます。

○教育長　それぞれ委員からご意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍が１票、教育出版が３票、Gakken が１票、以上です。

○教育長　ただいま投票の結果発表がありました。投票の結果、教育出版が過半数、３票以上を獲得いたしましたので、2025 年度使用教科用図書、中学校「道徳」は、教育出版に決定いたします。

以上で全教科についての採択結果が出ましたので、もう一度申し上げます。

国語、光村図書出版、書写、教育出版、社会（地理的分野）、帝国書院、社会（歴史的分野）、帝国書院、社会（公民的分野）、教育出版、地図、帝国書院、数学、東京書籍、理科、教育出版、音楽（一般）、教育芸術社、音楽（器楽合奏）、教育芸術社、美術、光村図書出版、保健体育、Gakken、技術・家庭（技術分野）、東京書籍、技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版、英語、三省堂、道徳、教育出版、以上でございます。

以上で第 16 号議案の審議を終了いたします。

休憩いたします。

午後２時 04 分休憩

○教育総務課長　傍聴人の皆様にお知らせいたします。

これで「2025 年度使用教科用図書（中学校）の採択」は終了いたしました。ここでお帰りになる方は傍聴券を職員にお渡しください。また、駐車場をご利用の方で駐車券の無料処理がお済みでない方は、職員にお申し出ください。

なお、会議はこの後すぐに再開いたしますので、お帰りになられる方は速やかにご退室くださいますようお願いいたします。

この後も引き続き傍聴される方は、閲覧用の資料を配布いたしますので、ご着席いただいたまま、しばらくお待ちください。

今から配布する閲覧用の資料をお持ち帰りされる場合は有料となりますので、あらかじめご了承ください。

―――――――――――――――――――――――――――――――――

午後２時 06 分再開

○教育長　再開いたします。

引き続き、議案第 17 号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明申し上げます。

○学校教育部長　議案第 17 号「2025 年度使用教科用図書（小学校）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条並びに同法施行令第 14 条及び第 15 条、町田市立小・中学校教科用図書採択要綱の規定により、2025 年度使用の小学校の教科用図書を採択するものでございます。

なお、2025 年度に使用する小学校教科用図書の採択につきましては、2023 年度検定において、新たな小学校教科用図書の申請がなかったため、前年に引き続き、別表の図書を採択するものでございます。

１枚おめくりください。

2025 年度使用町田市立小学校教科用図書一覧でございます。

説明は以上となります。

○教育長　以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了します。

お諮りします。議案第 17 号は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長　ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

次に、議案第 18 号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明申し上げます。

○学校教育部長　議案第 18 号「2025 年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について」、ご説明申し上げます。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条、

同法施行令第 14 条及び第 15 条、学校教育法附則第９条の規定、並びに町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、2025 年度使用教科用図書を採択するものです。

特別支援学級においては、文部科学省検定済教科書または文部科学省著作教科書以外の教科書を使用することができると学校教育法附則第９条第１項に規定しております。このことを受け、東京都教育委員会では、特別支援学校や特別支援学級で一般図書を採択する場合の参考となる事項を調査研究資料としてわかりやすくまとめております。教育委員会ではこの調査研究資料を参考として、各特別支援学級の実態や児童・生徒の実態に応じた適切な教科書を採択できるように努めていくこととなっております。

１枚おめくりください。

次ページからが東京教育委員会が作成した調査研究資料に掲載されている一般図書の一覧となっております。文部科学省検定済教科書、文部科学省著作教科書、またはこの一覧の中から、町田市内の特別支援学級で使用する図書を教科ごとに１冊ずつ選ぶこととなっております。

説明は以上になります。

○教育長　以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了します。

お諮りします。議案第 18 号は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長　ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

以上で町田市教育委員会第１回臨時会を閉会いたします。

午後２時 09 分閉会